

東戸塚小学校過大規模校対策 検討部会ニュース

第3号

発行日：令和5年12月18日

発行元：東戸塚小学校過大規模校対策検討部会
(事務局：横浜市教育委員会事務局学校計画課)

はじめに

現在、東戸塚小学校は一般学級数 31 学級（令和5年5月1日現在）の過大規模校であり、今後も更に児童数が増加して過大規模の状態が継続する見込みです。そのため、「東戸塚小学校過大規模校対策検討部会」において、過大規模校対策について検討しています。令和5年10月23日（月）に第3回検討部会を開催しましたので、検討状況等について、保護者の皆様や通学区域内にお住まいの皆様にお伝えします。

第3回検討部会

日時：令和5年10月23日（月）18時00分から
会場：東戸塚小学校



第3回検討部会の決定事項など

- ・東戸塚小学校の過大規模校対策は、分校設置案とする方向で意見がまとまりました。
- ・分校の学年分けについては、本校に1～3年生、分校に4～6年生とする方向で意見がまとまりました。
- ・分校名案については、「東戸塚小学校分校」とする方向で意見がまとまりました。

1 東戸塚小学校の過大規模校対策について

東戸塚小学校の過大規模校対策については、第2回検討部会の議論の内容を踏まえ、各所属団体で改めて話し合っていたが、第3回検討部会で再度検討を行いました。

第3回検討部会では、前回の議論と同様に、分校設置案について、概ね2校分の教職員配置や学校運営費等をメリットであるとする意見が多く出されました。また、同一敷地の分校であれば、建物等の管理は本校と分校の区分を決めて、それぞれに行う必要はありますが、児童の交流も図れ、地域とのこれまでの関係を変えることなく、学校運営が行える旨の意見も出され、検討部会としては、分校設置案が望ましいという意見でまとまりました。

【部会委員からの主な質問や発言】（凡例 ☆：委員 ⇒：事務局）

- ☆ 分校設置案がよいと思う。検討部会ニュースで、通学区域は変わらず、敷地が同一で、学年別分校という方向性が示されたため、地域の保護者からは分校設置案に肯定的な意見が多かった。一方で、学年別分校となっても、学年間交流や全学年での運動会などは続けてほしいという意見や分校となっても一体的な運営ができるようにしてほしいという意見、分校を設置しても児童の密度は変わらないことを懸念する意見もあった。
- ☆ 未就学のお子さんの保護者はまだ実感が持てない方もいる。対策の方向性が決まることでスケジュールが決まってくると現実味が出てくるのではないかと思う。また、検討部会に寄せられた意見（P.2～3参照）などを見ても、分校は別々の学校という印象になってしまうと思うので、校舎設計時や開校後の学校運営では、こうした意見も参考に、一体感のある整備や運営に努めてもらえればと思う。
- ☆ 周囲でも分校設置案に異論はない状況。教職員や予算面は重要だという意見が多く、児童に接する教職員は1人でも多い方がよいという意見ももらっている。
- ☆ 分校そのものに、ピンと来ていない人もいるかもしれないが、反対意見や否定的な意見を言う方はいない。一方で、工事が始まることへの不安や自分の子どもがプレハブ校舎に通うことになるのかという心配の声を聞いている。
- ☆ 充実した施設や教職員、予算で、児童とのコミュニケーションも十分に図れて、地域利用もできるのであれば、単独整備案でも分校設置案のどちらでもよいが、現状の制度で考えたときには、分校設置案が、あつれきが少ない形で教育環境の整備が実現できる可能性が高いと思う。
- ☆ 教職員不足と言われている中で、東戸塚小学校の児童数・学級数の増加にきちんと対応できるのか。
⇒ 児童数・学級数が増加していく学校においても、必要な教職員を適切に配置させていただきます。
- ☆ 過大規模校対策は別の敷地を確保して、新設校をつくることで児童の密度を減らすことが基本なのだ

- 思うが、東戸塚小学校の場合は、概ね2校分の敷地を活かした方法を検討している状況と認識している。教職員や学校運営費などの分校設置案のメリットを活かしていけば、学校運営も十分やっていけると考えている。また、分校設置案であれば、1つの東戸塚小学校を維持していける。同一敷地での分校を考える上での類似事例として、小中一貫校として校長1人体制で運営している義務教育学校があるが、そうした事例も参考にしながら、校長の負担を軽減するための役割分担などを検討していければと思う。
- ☆ 「分校=分割」というイメージになってしまい、東戸塚小学校としてのまとまりが無くなってしまわないかと心配されている方もいるようだ。仮に分校を設置するとしても、学校の運営方法によって、まとまりを維持してもらいたい。
- ☆ 【表1】の分校設置案における教職員配置の考え方を詳しく教えてほしい。
- ⇒ 分校は基本的に1校とみなされますが、本校と分校で概ね2校分に近い教職員配置となります。ただし、管理職は副校長が2人になりますが、校長は1人のままです。また、一部の教職員は本校と分校の両方を担当することになります。
- ☆ 当初は単独整備案で、学校運営費や教職員を増やしてもらえないかと考えていたが、現実を考えると、それはなかなか難しいとわかり、分校設置案にするのがよいと考えるようになった。

【表1】(参考) 東戸塚小学校過大規模校対策：3つの方策に対する事務局の点検・評価

項目		検討の視点	事務局の評価		
			単独整備案	分校設置案	分離新設案
学習環境・学校運営	施設整備	教育上、必要な施設の整備、児童・教職員に安全で使い勝手の良い配置	○ 1校分の施設整備水準等に基づき整備(特別教室の数等は別途検討)。	◎ 2校分の施設整備水準等に基づき整備が可能(校舎配置等により、共用できる部屋、スペース等があれば共有化を検討)。	◎ 2校分の施設整備(東戸塚小学校、新設校がそれぞれ独立した学校として整備されるため)。
	グラウンド面積の確保(竣工後)	グラウンド面積の広さ・使い勝手の良い形状			
	学校行事のしやすさ	学校運営に適した施設の配置、1校あたりの児童数	△ 1校で学校管理を行う。教職員は原則、1校分の配置。	○ 1校の学校管理の範囲を分割できる。教職員は、1校分の教職員+分校運営に必要な教職員を配置。	◎ 学校管理の範囲は東戸塚小学校と新設校で分割。2校分の教職員配置。(東戸塚小学校、新設校がそれぞれ独立した学校として整備されるため)
地域連携	教職員配置	学校運営に必要な管理職、教職員の確保			
	地域利用	現在、行われている地域活動の継続	○ 小学校の整備に合わせて、機能等の向上を図る。	○ 小学校の整備に合わせて、機能等の向上を図る。地域利用や災害対策については、今後検討。	○ 小学校の整備に合わせて、機能等の向上を図る。地域利用や災害対策(運営方法等)は別途検討。
	災害対策	災害対策の向上			
施設整備	通学区域	検討による通学区域への影響	○ 通学区域変更なし	○ 通学区域変更なし	▲ 学校と地域の結びつきが強い中で、通学区域は、改めて2校それぞれの設定が必要。
	工期	工事の期間(児童への負担など)			
	事業費	費用対効果、補助金の導入の可否	- 工期・事業費は設計等の時点で詳細な検討が必要。今後、補助金の確保に努める。(現時点では評価対象外)	- 工期・事業費は設計等の時点で詳細な検討が必要。今後、補助金の確保に努める。(現時点では評価対象外)	- 工期・事業費は設計等の時点で詳細な検討が必要。今後、補助金の確保に努める。(現時点では評価対象外)
その他	グラウンド面積の確保(工事中)	工事期間中において確保できるグラウンド面積			
		異なる学校が隣接することに対する学校教育への影響	-	-	▲ 2校が隣接するため、常に比較対象として見られ、本来は生じないはずの学校間の競争が注げる懸念がある。

【第2回検討部会後に寄せられた意見及び質問等】(凡例 ◆：意見・質問 ⇒：事務局からの回答)
 ※お寄せいただいた御意見等は検討部会に報告しました。なお、紙面の都合上、抜粋・要約して掲載しています。御意見の全文は、第3回検討部会の当日資料として、ホームページ(P.4参照)で御覧いただけます。なお、◆の2つ目の御意見への回答は第3回検討部会終了後にお送りしました。

- ◆ 東戸塚小学校在校生の保護者です。分校にする必要性は何でしょうか。学年ごとに分けるとしても、一学年あたりの学級数は多いままなので、子どもの活躍の場がないなどの課題は解決していないと思います。分校にせずとも、分校のメリットを規約に追加して、市議会や市長の承認を得ればよいのではないのでしょうか。
- ⇒ 東戸塚小学校の過大規模校対策については、分離新設案だけではなく、単独整備案と分校設置案を

含めた3案で検討を行っています。検討部会では、2校分の施設整備や教職員配置等を考慮すると、分校設置案がよいという意見が多く出されました。

なお、1学年あたりの学級数が多く、お子さんの活躍の場がないという御懸念については、今後の学校運営を考えていく中で、引き続き、検討を行ってまいります。

◆ 東戸塚小学校在校生の保護者です。過大規模校対策3案の検討について以下のとおり意見を述べさせていただきます。

- ・学校の敷地が広がらないのなら分校設置のメリットはほとんどない。
- ・学校を分割することの弊害の方が懸念される。
- ・予算・人員配分のためだけに分校案を選ぶのは、東戸塚小にとっても市財政にとっても不本意。
- ・児童数・学級数に応じた予算・人員の配分を、検討部会として市当局に要望すべき。

⇒ 第3回検討部会では、これまでの議論と同様に分校設置案について、概ね2校分の施設整備や教職員配置等をメリットであると考えられる意見や、同一敷地の分校であれば、管理区分は分けつつも、児童の交流も図れて地域とのこれまでの関係を変えることなく学校運営が行える旨の意見も多く出されたことを受け、「分校設置案」を検討部会の意見とすることが決まりました。

なお、御指摘いただきました分校を設置することで生じる課題については、今後の施設整備において解消に努めていくとともに、学校の管理運営についても、児童や教職員の交流や連携が適切に図れるよう、学校と連携し、教育委員会事務局にて検討を行ってまいります。

2 分校の学年分けについて

東戸塚小学校で想定する分校の学年分けについては、学校経営が専門で、横浜市の教育行政にも精通している学識経験者へのヒアリングや、教育委員会事務局内で意見交換を行った内容（【表2】参照）も参考にして議論を行った結果、本校と分校を3学年ずつとし、本校に1～3年生、分校に4～6年生とすることを検討部会の意見とすることとなりました。

【表2】学識経験者等へのヒアリング結果

	学識経験者	<参考>横浜市教育委員会事務局
	①国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科 教授 北神 正行 氏 ②国立教育政策研究所 名誉所員 小松 郁夫 氏	学校教育企画部等
総括	・学年分けは、年度によって1学年9学級が見込まれており、4学年と2学年で分けてしまうと、過大規模校になってしまうので、1～3年生と4～6年生をまとめることによいと思う。	・学年分けはシンプルに近い学年で固める形によいと思う。
学校運営	・校長は1人なので、学校行事等の配分もしやすいと思う。 ・副校長の専決事項を決めて運営していくシステムをつくれれば、うまく学校経営等も行えると思う。同一敷地であれば、意思疎通もしやすいと思う。 ・一学年あたりの教員も多いので、若手からベテランまで揃えられる。教員の育成にうまくつながれるとよい。	・本校と分校の行き来がしやすい校舎のつくりであれば、ペア学年の交流ができる。 ・学習面では、授業で使う備品等が同じ棟の中に集められるメリットがあるので、1～3年生や4～6年生など学年が近接している方がよい。 ・個別支援学級については、交流級との行き来が重要であり、1～3年生の棟の方には低学年、4～6年生の棟の方には高学年の個別支援学級を設置することが望ましい。(本校と分校の行き来ができるのであれば、低学年と高学年で分けなくても柔軟に対応できるので、学校の状況にもよる)
指導・教育	・5～6年生は教科担任制を行っていると思うので、4年生の授業もサポートできるとよい。可能なら、4年生の算数や理科などには教科担任制を導入するのが望ましい。 ・低学年が高学年の活動を見て、自分たちの将来イメージを描けるよう、交流は必ずやるべき。 ・低学年では人間関係構築を図るため、1～3年生については、言語やコミュニケーション能力を高める取組を、学校行事を中心にしっかりやっていくべき。	・チーム学年経営（教科担任制）の考え方から、5～6年生を分けないようにする方がよい。 ・4年生からクラブ活動なども始まるので、高学年の仲間入りという意識付けにもなる。 ・1年生は2年生を見て学ぶので、1～2年生は離したくない。
施設	・高学年になると、グループ学習や発表の機会が増える。可能であれば、高学年ではこのような学習が行いやすいように、施設や備品などを工夫できるとよいと思う。	・近い学年が固まっていた方が、発達段階に合わせた合理的な施設整備ができ、生活もしやすいと思う。(例：トイレや図書室) ・高学年では、児童会議室などが必要となるほか、他学年と比べて少人数指導が行われる頻度も高いため、高学年で固める方が必要な教室の整備もしやすいのではないかと。

- ☆ 学年分けについては、【表2】の内容と同意見で異論はない。しかし、年度によっては、本校と分校の学級数のバランスが悪くなってしまう恐れもあり、施設整備を考える上でも不都合となる可能性もある。学年分けは決めなければならないのか。
- ⇒ 分校を設置する場合、○～○年生が本校、○～○年生が分校と規則で定めて運営することが前提になっています。必ずしも1～3年生と4～6年生にしなければならないわけではありませんが、【表2】のヒアリングは学校運営のしやすさという観点も考慮して行いました。なお、今後、学校運営に大きな支障が生じてしまうような場合には、規則改正の手続きを経て、学年分けを変えることも可能です。
- ☆ 個別支援学級について、東戸塚小学校においては、個別支援学級の1～6学年が一か所に集まる機会も多いので、本校と分校に分けることなく、全学年が近くなるように配置される方がよいと考えている。また、個別支援学級に限った話ではないが、本校と分校で分かれても、ペア学年（東戸塚小学校のペア学年は、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生）の交流がしやすいように、渡り廊下をつくるなど、施設整備で工夫をしてもらいたい。また、教科担任制として、英語等で専任教員が配置されており、こうした対応が今後も継続していけば、過大規模校でも学校運営をしっかりと行っていけると考えている。

3 分校名について

分校名については、議論の結果、「東戸塚小学校分校」とすることが検討部会の意見となりました。

【参考】分校名案の選定方法について

（案1）東戸塚小学校分校とする。

（案2）新しく分校名をつける。

なお、その際は、次のいずれかに該当するものは、選定しない。

ア 市内に学校名が既に存在・類似するもの

イ 分校名として長すぎるもの

ウ 東戸塚小学校通学区域以外の地名等や他地区と誤解されやすいもの

エ 言いづらい、発音しづらいもの

オ 人名に多いもの

※ 分校名は、検討部会としての意見決定後、学校規模適正化等検討委員会（審議会）、教育委員会、横浜市会での決定を経る必要があります。

【部会委員からの主な質問や発言】（凡例 ☆：委員）

- ☆ 名前を決めるために、アンケートなどを行っているが、時間がかかり過ぎてしまうこともあるので、案1の「東戸塚小学校分校」でよいのではないかと。また、（案2のようなかたちで）分校名を決めなくても、実際の学校運営の場面では、通称名などを使用することも考えられる。
- ☆ （案2のようなかたちで）分校名を決めてしまうと、学校が分割される印象が強くなってしまふ。個性がない方が、学校としての一体感が出るのではないかと。

◆第4回検討部会について ※会議は公開で行います。傍聴については、後日、下記ホームページで御案内します。

日時：令和6年1月15日（月）18時00分から 会場：東戸塚小学校 2棟1階ランチルーム

検討内容：検討部会から提出する意見書案について

◆東戸塚小学校過大規模校対策検討部会の検討経過等について

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからも御覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/kadaikibo/higashitotsuka-kibo.html>



◆事務局（お問い合わせ先）

皆様からの御意見や御質問を受け付けております。Eメール、電話またはFAXでお寄せ下さい。

横浜市教育委員会事務局学校計画課

Eメール：ky-higashitotsuka-kibo@city.yokohama.jp

TEL：045-671-3252

FAX：045-651-1417

